

令和7年度 千葉県立美術館実施計画 外部評価票（重点事業1）

重点事業1 地域の特色を活かしたアートプロジェクト、他分野とアートの融合、世界の潮流を捉えたアート

1. 実施内容および実績

R7実施項目	R7実施内容	R7実績
千葉みなと地域のイベントへの参加、近隣施設等との連携	<p><イベント参加></p> <ul style="list-style-type: none"> ○9月 千葉みなとさんばしまつり ○11月 千葉みなと大漁まつり（館内施設の活用を図る） ○12月 千葉みなと千夜市夜 ○12月 千葉みなとクリスマスマーケット <p><近隣施設等との連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域飲食店との連携（新規） ○「没後50年 高島野十郎展」に係る「満月夏まつり」に関する近隣施設との連携（新規） 一店舗数、来館者数 ○「オランダ×千葉 撮る、物語る」展に係るMUMA（ミュージアムマーケット）に関する近隣施設との連携一店舗数、来館者数 	<p><イベント参加></p> <ul style="list-style-type: none"> ○千葉みなとさんばしまつり（開催日：9月7日） 内容：ワークショップ「えんびつであそぼ」 参加者数：234人 ○千葉みなと大漁まつり（開催日：11月2日） 内容：ワークショップ「県美の建築コラージュ～缶バッジでカラフル★コンポジション」 参加者数：133人（うち、有料制作者76人） 館内施設の活用として、ポートパークの舞台に出演する団体（チアリーディング）の控室として和室を利用した。館内トイレを美術館入館者以外にも開放した。 ○千葉みなと千夜市夜（開催日：12月6日） 内容：ワークショップ「県美の建築コラージュ～缶バッジでカラフル★コンポジション」 参加者数：45人（制作者31人） ○千葉みなとクリスマスマーケット（天候不良により中止） <p><近隣施設等との連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域飲食店との連携（新規） （1）タリーズコーヒー千葉みなと店 ・6月20日～29日：新規フォロー特典：美術館SNSをフォローして、画面提示した方にタリーズで使用できるサイズアップチケットを配布した。 ・8月21日～9月28日：タリーズで該当チラシを取り、美術館でチラシと入場半券を総合受付で提示した方に美術館絵葉書とアイストッピング券を配布した。 （2）軒先珈琲 ①「民藝展」の期間中に休憩室でのスライドトークにおいて、コーヒーを提供（出張販売）した。開催日：5月28日、参加者数：23人、開催日：6月11日、参加者数：23人 ②「没後50年 高島野十郎展」の期間中、ミュージアムショップが閉まる夜間開館時に店舗し、コーヒーの販売、展覧会図録や一部グッズ、ドリップパック販売を行った。開催日数：20日、図録販売数：168冊 ○「没後50年 高島野十郎展」に係る「満月夏まつり」の実施（新規）。開催日：8月9日 内容：野十郎作品の中で特に人気の高いテーマの中に「月」があることから、満月の日に千葉県内の小売店が出店・販売するイベントを開催した。 出店数：27店舗 参加者数：95人（スタンプラリー参加者）、来館者数：1361人 ○「オランダ×千葉 撮る、物語る」展に係るMUMA（ミュージアムマーケット）の実施 第7展示室前と休憩室、みちのにわ（1月のみ）にて、展覧会関連商品や写真やファッション関係の商品を販売するとともに、千葉県内及び千葉県近郊の小売店が出店・販売するイベントを開催した。 ①開催日：11月22日～24日、出店数：22日4店舗、23日5店舗、24日4店舗、来館者数：1795人 ②開催日：1月17日～18日、出店数：17日34店舗、18日41店舗、来館者数：9740人
写真など新しい分野を紹介する展覧会	<p>○写真家サラ・ファン・ライ等を紹介する展示を開催する。 特別展：「オランダ×千葉 撮る、物語る」 会期：11月15日～1月18日</p>	<p>○特別展：「オランダ×千葉 撮る、物語る」 オランダと千葉との文化交流の一環で、オランダの写真家サラ・ファン・ライとダヴィット・ファン・デル・レーウを取り上げ、あわせて千葉の写真家、清水裕貴とともに千葉の古写真のコレクションを紹介する展覧会を開催した。 ・入場者数：5416人（会期49日） ・関連イベント ①アーティストトーク 開催日：11月15日、参加者数：44人、 開催日：12月20日、参加者数：57人、 ②講演会 開催日：12月6日、参加者数：43人、 ③JAZZコンサート 開催日：12月14日、参加者数：228人 ・図録刊行記念トークイベント 清水裕貴×大竹昭子 開催日：12月23日、開催場所：青山ブックセンター、参加者数：22人、 清水裕貴×畑井恵 開催日：1月10日、開催場所：Live Art Gallery、参加者数：18人 ・関連展示 開催日：1月9日～24日、開催場所：Live Art Gallery</p>

2. 評価指標の判定

項目	指標	現状	達成度・判定※（R7年度）				目標値			備考
			目標値	実績値	達成度	判定	(R8)	(R9)	R10	
地域の特色を活かしたアートプロジェクト、他分野とアートの融合、世界の潮流を捉えたアート	千葉みなと地域・地元企業等との連携企画	5回	6回	7回	達成	A	7回	8回	8回	イベント参加数（千葉みなとさんばしまつり、千葉みなと大漁まつり、千葉みなと千夜市夜）3回＋ 地元企業連携の連携数（タリーズコーヒー、軒先珈琲、満月夏まつり、MUMA（ミュージアムマーケット））4回

3. 自己点検

<ul style="list-style-type: none"> ・本県ならではの自然と歴史・文化を活かしたアートプロジェクトを展開しアートの力で地域の魅力を高め、地域の活性化に貢献することができた。 ・千葉みなとに隣接した立地を活かして、ポートパークやさんばし広場など、近隣施設とのコラボレーション、イベントに積極的に参加し地域の活性化に貢献することができた。 ・連携企画は7回となり、令和7年度の目標である6回を超えることができた。 ・近隣施設等の連携については、自ら連携先を開拓し、成果を納めることができた。 ・美術館として初めて写真分野の展示を実施し、アーティストトークなどのイベントでは、千葉県外からの参加者が半数近くとなるなど、新たな客層を呼び込むことができた。
--

令和7年度 千葉県立美術館実施計画 外部評価用自己点検票（重点事業2）

重点事業2 房総の美術をはじめとするコレクションの紹介と研究の深化

1. 実施内容および実績

R7実施項目	R7実施内容	R7実績
コレクション展示コーナーのスポット導入	○「コレクション・ハイライト」展の開催による県民ニーズの調査 会期：6月11日～7月13日	○「コレクション・ハイライト」展 会期：6月11日～7月13日（会期29日間） 常設展示を設けることについての来館者アンケートを実施。 〈結果〉賛成82%、反対1%、どちらでもよい17%
企画展・特別展と合わせたコレクション関連展示の実施	○「民藝展」関連展示 千葉会場限定企画「民藝運動前夜—我孫子時代の柳宗悦 朝鮮美術と白樺派」 会期：4月22日～6月29日 ギャラリートーク、スライドトークの実施 ○「没後50年 高島野十郎展」関連展示「千葉に生きた写真の画家—椿貞雄」 会期：7月18日～9月28日 ギャラリートークの実施 ○「オランダ×千葉 撮る、物語る」関連展示（特別展出品作品と並列してコレクションを出版）会期：11月15日～1月18日 ギャラリートークの実施 ○「鉄絵銅彩 神谷紀雄陶展 春風陶花」関連展示「県展史の人々—千葉県立美術館のはじまり物語（仮）」会期：令和8年1月27日～4月5日 ギャラリートーク、スライドトークの実施予定	○「民藝展」関連展示「民藝運動前夜—我孫子時代の柳宗悦 朝鮮美術と白樺派」 ・我孫子時代の柳宗悦を取り上げ、民藝運動と千葉県の関わりを紹介した。 ギャラリートーク、スライドトーク（実施回数8回 参加人数226人） ○「没後50年 高島野十郎展」関連展示「千葉に生きた写真の画家—椿貞雄」 ・野十郎と同時期の草土社で活躍した千葉ゆかりの作家、椿貞雄を紹介した。 ギャラリートーク（実施回数6回、参加人数303人）ワークショップ（実施回数1回、参加者数18人） ○「オランダ×千葉 撮る、物語る」関連展示（特別展出品作品と並列してコレクションを出版） ・千葉にまつわる写真の歴史に注目し、写真とともに当館のコレクションを紹介した。 ギャラリートーク（実施回数4回、参加人数70人）ワークショップ（実施回数9回、参加者数396回） ○「鉄絵銅彩 神谷紀雄陶展 春風陶花」関連展示「県展史の人々—千葉県立美術館のはじまり物語」 ・神谷が会長を務める千葉県美術会の展覧会（県展）の70年の歴史を当館のコレクションで振り返った。 ギャラリートークの実施（実施回数3回 参加人数〇人） ワークショップ実施（実施回数1回、参加者数28人）
我孫子と民藝運動、神谷紀雄に関する調査・研究	○「民藝展」の開催のための調査・研究 ○「鉄絵銅彩 神谷紀雄陶展 春風陶花」の開催に向けた調査・研究、図録への論考掲載	○「民藝展」の開催のための調査・研究 〈調査研究〉我孫子時代の柳宗悦の活動や地域との関連性等について、白樺文学館、日本民藝館、県立中央図書館等で調査を実施 ○「鉄絵銅彩 神谷紀雄陶展 春風陶花」の開催に向けた調査・研究、図録への論考掲載 〈調査研究〉作家への聞き取り調査・展覧会出品歴の網羅的調査〈図録〉論考1件を掲載
千葉ゆかりのアーティスト・コロニー、大高正人に関する調査・研究	○コロニー展開催に向けた調査・研究 会期：令和9年4月～6月 ○大高正人展開催に向けた調査・研究 会期：令和9年1月～3月	○コロニー展開催に向けた調査・研究 出展作家の調査：板谷波山について他館3回、板倉鼎について他館1回、柳宗悦について他館3回 ○大高正人展開催に向けた調査・研究 7月6日文化会館見学、8月29日近現代建築資料館調査、11月7日、8日JIA建築家大会参加、 11月11日～13日広島香川調査、12月25日多摩センター駅・南大沢駅調査

2. 評価指標の判定

項目	指標	現状	達成度・判定※（R7年度）				目標値			備考
			目標値	実績値	達成度	判定	(R8)	(R9)	R10	
房総の美術をはじめとするコレクションの紹介と研究の深化	図録への論考掲載	—	1件	1件	達成	A	2件	2件	2件	「神谷紀雄展」図録への論考
	コレクションに関する体験プログラム数	—	6件	32件	達成	A	7件	8件	10件	項目2のギャラリートーク、スライドトーク、ワークショップ等の合計数

3. 自己点検

<ul style="list-style-type: none"> ・房総の美術をはじめとするコレクションの魅力や伝え、県民の財産であるコレクションの価値向上に貢献するため、コレクションに関する展示を行うとともに、他美術館や外部機関との連携を図りながら、コレクション研究を深化させることができた。 ・常設展示を設けることについて、県民の意見を聞くことができた。 アンケート結果（抜粋） <ul style="list-style-type: none"> ・常設展示では美術館の特色を知ることができる。 ・いつでも作品を気軽に楽しめる。 ・県の財産として積極的に公開してほしい。 ・常設展は多くの美術館が実施している。 ・学芸員の研究成果を見たい。 ・美術館として、常設展示を設ける方向で検討をすすめるが、展示スペースをどのように確保していくかが課題である。 ・コレクションの保存状態の調査を随時行うとともに、コレクション関連展示に向けてテーマに併せた収蔵作品、作家に関する調査・研究を行った。
--

令和7年度 千葉県立美術館実施計画 外部評価用自己点検票（重点事業3）

重点事業3 国内外のアーティストとの交流の場の創出

1. 実施内容および実績

R7実施項目	R7実施内容	R7実績
ドイツからのアーティスト受入 オープンスタジオ ワークショップ	○アーティストの受入（10月23日～12月17日） ○成果展の開催（12月3日～14日） ○交流会、オープンスタジオ、ギャラリートーク、ワークショップの実施	アーティストの受入事業は、県ゆかりのアーティスト及び関係者との交流を深めるイベントの実施による国内外のアーティストの交流の場の創出のため、また成果展のキュレーション、アーティストトーク・ワークショップの企画運営等による地域住民との交流の場の創出のため実施した。 〈主な業務〉 アーティストの生活環境の整備、調査・制作のサポート、県ゆかりのアーティスト及び関係者との交流を深めるイベントの実施、本事業及び成果展に係る各種広報展開（チラシ類作成、SNS広報、記録動画作成等）、成果展のキュレーション、アーティストトーク・ワークショップの企画運営 ・アーティスト歓迎会 開催日：10月27日、参加者数：28人 ・成果展 開催日：12月3日～14日、入場者数：963人 ・アーティスト・トーク 開催日：12月3日、参加者数：43人、 ・メディア説明会 開催日：12月3日、参加者数：4社5人、レセプション：39人 ・ワークショップ 開催日：12月7日 参加者数：11人

2. 評価指標の判定

項目	指標	現状	達成度・判定※（R7年度）				目標値			備考
			目標値	実績値	達成度	判定	(R8)	(R9)	R10	
国内外のアーティストとの交流の場の創出	国際交流事業に係るイベント参加者等の交流人数	—	50人	82人	達成	A	70人	80人	100人	アーティスト歓迎会、アーティスト・トーク、ワークショップの参加者合計

3. 自己点検

<ul style="list-style-type: none"> 国内外のアーティストとの交流の場を創出するため、今年度初めてドイツ・デュッセルドルフ市からアーティストを受け入れることができた。来年度はデュッセルドルフ市へアーティストを送り出すとともに、今後は県内の市町村、企業や他のアートプロジェクトとの連携を検討し、アーティスト交流のハブとなることを目指す。 海外のアーティストと共に短期間で展示を作り上げるという経験を通して、異文化間での円滑なコミュニケーションの取り方などの学びを得た。 アーティスト歓迎会や成果展オープニングを通じて、県ゆかりのアーティストや県内及び近郊レジデンス関係者、国際交流事業関係者等との交流が広がり、美術館を中心とした文化・国際交流の輪が作られた。 成果展、ワークショップ、各種イベントやそれに伴う広報物の確認など、短い期間でこなさなければいけない業務が多く、アーティスト本人の負担が大きくなってしまった。 チラシ・案内状の送付を通して外部への事業の広報を行ったが、より広い県民及び関係各所への事業周知が必要だった。

令和7年度 千葉県立美術館実施計画 外部評価用自己点検票（重点事業4）

重点事業4 アーティストやボランティアと子どもたちの出会いの場・創作体験の機会を創出

1. 実施内容および実績

R7実施項目	R7実施内容	R7実績
夏休み期間、子どもたちにアトリエ開放	○「ぐるぐる？アート夏やすみ」期間中のアトリエ開放（新規） 期間：7月19日～8月31日	○「ぐるぐる？アート夏やすみ」期間中の「県美でアートな宿題しない？アトリエ（新規） 期間：7月19日～8月31日(38日間)、のべ参加者数：264人、ボランティア参加者数90人(累計) 来館した子どもがふらっと立ち寄り、絵具を使ってアトリエから見える風景を描いたり、自由に制作できるようにした。8月中下旬には、絵画コンクール用の画用紙を持ち込んで絵の宿題で数回通う親子も見られた。また、不登校気味の子どもや特別支援を受ける子どもの居場所になっていることもあった。ボランティアはいつでも来た親子を受け入れ、場合によっては用具を貸し出したりして制作のサポートを行った。
アーティストによるワークショップ	○「ぐるぐる？アート夏やすみ」や「鉄絵銅彩 神谷紀雄陶展 春風陶花」におけるアーティストによるワークショップの実施	○「ぐるぐる？アート夏やすみ」 千葉ゆかりの若手アーティストによるワークショップを実施した。 ①TOMOMI氏「からだどろーいんぐ」開催日：7月19日 参加者数：34人 第7展示室いっばいに広げた白い紙の上に裸足で乗って自由に線を描きながら、身体を使って表現するアートを楽しんだ。 ②仲村浩一氏「砂絵を描こう！」開催日：8月16日 参加者数：34人 ポートパークで採集した砂や、カラフルな砂を用いて、「思い出の風景と私」をテーマに共に創作を楽しんだ。 ③花澤武夫氏「千葉みなどに月が出た」開催日：8月23日 参加者数：33人 「没後50年 高島野十郎展」にちなんで、満月をテーマに、千葉みなどの海岸に打ち上がった漂着物を用いて、アーティストやサポーターと参加者が表現したいものを対話を通じて見つけ出ししながら、インスタレーションを制作した。 ○「鉄絵銅彩 神谷紀雄陶展 春風陶花」 ①神谷祥子氏「鉄絵銅彩の技法で小皿に絵付けをしよう」開催日：2月28日 参加者数：28人 「鉄絵銅彩 神谷紀雄陶展 春風陶花」にちなんで、鉄絵銅彩の技法を体験しながら小皿に絵付けをし、作品を制作した。
ボランティアの関わり検討	○ミュージアム・サポーターによる建物探検ツアーやガイドの試行（新規） ○大学生サポーターの継続的な募集（新規）	○ミュージアム・サポーターによる建物探検ツアーやガイドの試行（新規） 建築探検ツアー 開催数：4回 参加者数：60人、 トーク＆ガイド 開催数：21回 参加者数：150人 ○ぐるぐる？アート夏やすみでの参加者対応、運営補助 ○大学生サポーターの数（新規）令和6年度1人→令和7年度6人
小学生向けサポートプログラムの検討	○「ぐるぐる？アート夏やすみ」の実施を通じた次年度以降のプログラムの検討	来館者アンケートでも気軽に参加できるワークショップへの好意的な感想が寄せられた。8年度は、建築ツアーなど県美の魅力を発見するプログラムや展覧会鑑賞プログラムと、作品や展覧会につながるワークショップを融合したプログラムの開催を目指す。

2. 評価指標の判定

項目	指標	現状	達成度・判定※（R7年度）				目標値			備考
			目標値	実績値	達成度	判定	(R8)	(R9)	R10	
アーティストやボランティアと子どもたちの出会いの場・創作体験の機会を創出	夏休みアトリエ開放への参加者（参加した子どもの人数）	—	30人	264人	達成	A	50人	70人	100人	
	夏休みアトリエ開放への参加者（ボランティアの人数）	—	10人	90人	達成	A	20人	25人	30人	

3. 自己点検

<ul style="list-style-type: none"> 子どもでも気軽にアートに触れられる環境を整え、子どもたちにアートの無限の可能性を伝え、未来を担う子どもたちの感性を育むため、今年度は「ぐるぐる？アート夏休み」などを実施し、アーティストやボランティアと子どもたちとの出会いの場を創出し、アートを媒介としたコミュニティを形成することができた。 リピーターも見られ、当初の目的であった「子どもや親子が気軽に美術館に来る」ことが達成された。 千葉の若手アーティストの手法を用いて子どもたちが制作するアーティストワークショップでは、参加者から「自由度が高く、楽しかった」という意見や「親も楽しかった」という感想があった。またアーティストも、自分が予想していなかった材料の使い方をする子どもの大胆さなどに驚いたという感想があり、互いに刺激を与え合うことができた。 ボランティアである当館ミュージアム・サポーターの協力により、参加者の子ども達や、保護者・大学生・シニアなど世代をこえた交流が生まれた。 広報が遅くなってしまったため、終盤や終了後に本事業のことを知った人もいた。本事業の認知度が課題として挙げられる。

令和7年度 千葉県立美術館実施計画 外部評価用自己点検票（重点事業5）

重点事業5 多様なニーズや経験の違いに応じた体験プログラム

1. 実施内容および実績

R7実施項目	R7実施内容	R7実績
展覧会の理解を深める体験プログラムの実施	<ul style="list-style-type: none"> ○「民藝展」関連体験プログラム 記念講演会を含む計5回 ○「没後50年 高島野十郎展」関連体験プログラム 館長によるファミリーツアーを含む計10回 ○「オランダ×千葉 撮る、物語る」展関連体験プログラム アーティストトークを含む計2回 ○「鉄絵銅彩 神谷紀雄陶展 春風陶花」関連体験プログラム 記念講演会を含む計3回 	<ul style="list-style-type: none"> ○「民藝展」関連体験プログラム： 講演会 2回（森谷美保氏：美術史家、テリー・エリス氏/北村恵子氏：MOGI Folk Artディレクター） 参加者数：259人、ギャラリートーク 8回 参加者数：226人 ○「没後50年 高島野十郎展」関連体験プログラム 講演会 1回（西本匡伸氏：福岡県立美術館特任学芸員）参加者数：195人、 ギャラリートーク 6回 参加者数：303人、 館長によるファミリーツアー 2回 参加者数：13人、ワークショップ 1回 参加者数：18人 ○「オランダ×千葉 撮る、物語る」展 関連体験プログラム 講演会1回（飯沢耕太郎氏：写真評論家）参加者数：43人、アーティストトーク 2回 参加者数：101人、 ギャラリートーク 4回 参加者数：70人、ワークショップ 9回 参加者数：396人 ○「鉄絵銅彩 神谷紀雄陶展 春風陶花」関連体験プログラム 講演会2回（神谷紀雄氏：陶芸家、十四代今泉今右衛門：陶芸家）参加者数：212人、 ギャラリートーク 3回 参加者数：〇人、ワークショップ 1回 参加者数：28人
アーティスト・ワークショップの実施	<p>【再掲】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「ぐるぐる？アート夏やすみ」や「鉄絵銅彩 神谷紀雄陶展 春風陶花」におけるアーティストによるワークショップの実施 	<p>【再掲】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「ぐるぐる？アート夏やすみ」 千葉ゆかりの若手アーティストによるワークショップを実施した。 ①TOMOMI氏「からだどろーいんぐ」開催日：7月19日 参加者数：34人 第7展示室いっばいに広げた白い紙の上に裸足で乗って自由に線を描きながら、身体を使って表現するアートを楽しんだ。 ②仲村浩一氏「砂絵を描こう！」開催日：8月16日 参加者数：34人 ポートパークで採集した砂や、カラフルな砂を用いて、「思い出の風景と私」をテーマに共に創作を楽しんだ。 ③花澤武夫氏「千葉みなとに月が出た」開催日：8月23日 参加者数：33人 「没後50年 高島野十郎展」にちなんで、満月をテーマに、千葉みなの海岸に打ち上がった漂着物を用いて、アーティストやサポーターと参加者が表現したいものを対話を通じて見つけ出ししながら、インスタレーションを制作した。 ○「鉄絵銅彩 神谷紀雄陶展 春風陶花」 ①神谷祥子氏「鉄絵銅彩の技法で小皿に絵付けをしよう」開催日：2月28日 参加者数：〇〇人 「鉄絵銅彩 神谷紀雄陶展 春風陶花」にちなんで、鉄絵銅彩の技法を体験しながら小皿に絵付けをし、作品を制作した。
子ども向けアート体験コーナーの検討・設置	<ul style="list-style-type: none"> ○企画展のテーマに合わせた常設ワークショップの設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・「民藝展」常設ワークショップ（花を描こう）参加者数：562人 ・「没後50年 高島野十郎展」常設ワークショップ（くだものの置き方）参加者数：1147人 野十郎の静物画作品を出発点に、その配置・構成・モチーフに着目した内容。 ・「オランダ×千葉 撮る、物語る」常設ワークショップ（モノクロの風景に色をかざそう／あなたの眺める風景）参加者数：2118人（計2種類） ・「鉄絵銅彩 神谷紀雄陶展 春風陶花」常設ワークショップ（鉄絵銅彩ってなあに？2つの色でコースターをデザインしよう）参加者数：〇人

2. 評価指標の判定

項目	指標	現状	達成度・判定※（R7年度）				目標値			備考
			目標値	実績値	達成度	判定	(R8)	(R9)	R10	
多様なニーズや経験の違いに応じた体験プログラム	展示関連ワークショップ・講演会等の体験プログラムの開催数	年15回	16回	46回	達成	A	17回	18回	20回	項目1、2のプログラム回数の合計

3. 自己点検

<ul style="list-style-type: none"> ・展覧会の理解をより深めるため、様々な経験の違いや世代に応じたプログラムを充実させ、誰もがアートを楽しめる機会を創出することができた。 ・展覧会関連の体験プログラムは、鑑賞に関するもの、ワークショップ等の制作するもの、いずれのプログラムも実施して、展覧会の理解を深めることができた。 ・アーティストによるワークショップを企画し、アーティストと参加者が互いに刺激を得ることとともに、会話等を通して距離が縮まり、アートの理解を深めることができた。 ・子どもたちの展覧会に関する理解を深めるため、子ども向けアート体験として開催した常設ワークショップは、「気軽に参加しやすい」といった感想が寄せられ、また子どもだけではなく大人も楽しんだことがわかる作品も多く見られた。

令和7年度 千葉県立美術館実施計画 外部評価用自己点検票（重点事業6）

重点事業6 学校教育との連携による美術教育の拡充

1. 実施内容および実績

R7実施項目	R7実施内容	R7実績
学校と美術館を結ぶバスの試験的な導入（新規）	<ul style="list-style-type: none"> ○「没後50年 高島野十郎展」と関連した、柏市立の小学校を対象とした鑑賞授業の実施 ○企画展等と関連した鑑賞授業の実施 ○事前出前授業を通じた事業の展開方法の検討 	<p>ミュージアムバス事業として、日ごろ美術館所蔵の本物の美術作品に触れる機会の少ない県内の小中学校に、美術館が手配したバスにより来館してもらい、展覧会の鑑賞等を行った。（今年度新規事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「没後50年 高島野十郎展」と関連した鑑賞授業の実施 【ミュージアムバス事業】 柏市立藤心小学校 4年生 34人 実施日：9月24日 内容：展覧会関連トーク&ガイド ○企画展等と関連した鑑賞授業の実施 ・「オランダ×千葉 撮る、物語る」展と関連した鑑賞授業の実施 【ミュージアムバス事業】 松戸市立第一中学校 美術部 14人 実施日：1月17日 内容：展覧会関連トーク&ガイド、ギャラリートーク、ワークショップ（館内で、自分の体や影を入れた写真を撮影し、それぞれの写真を鑑賞した。） ・「鉄絵銅彩 神谷紀雄陶展 春風陶花」と関連した鑑賞授業の実施 【ミュージアムバス事業】 浦安市立日の出南小学校 5年生 87人 実施日：2月10日 内容：展覧会関連トーク&ガイド、ワークショップ（解説付の常設ワークショップ） ・「鉄絵銅彩 神谷紀雄陶展 春風陶花」と関連した鑑賞授業の実施 【ミュージアムバス事業】 浦安市立舞浜小学校 2年生 87人 実施日：2月13日 内容：展覧会関連トーク&ガイド、ワークショップ（解説付きの常設ワークショップ） ・「鉄絵銅彩 神谷紀雄陶展 春風陶花」と関連した鑑賞授業の実施 【ミュージアムバス事業】 浦安市立入船小学校 特別支援学級（わかしお学級） 19人 実施日：2月20日 内容：展覧会観覧、ワークショップ ・ミュージアムバス事業以外の鑑賞授業を実施した学校：2校（小学校1校、中学校1校） 内容：展覧会鑑賞 ○事前出前授業を通じた事業の展開方法の検討 9月24日に実施した「没後50年 高島野十郎展」と関連した鑑賞授業に係る出前授業を行った。 実施校：柏市立藤心小学校4年生 実施日：7月2日 内容：学芸員による展覧会解説を聞き、高島野十郎ってどんな人だろう？と考えた。 自分で興味をもったことについて探究していく学習の導入を行った。 実施日：9月5日 内容：児童一人一人が調べ学習を通して知ったことや気付いたことなどについてまとめ、ミニ発表会で美術館学芸員へ発表をした。
学校向けプログラムの開発・学校との協議	○教育現場への聞き取りや提案を通じた学校団体向けのプログラムの開発	・学校来館対応にて実施したプログラムや、下見打合せ等で聞き取りを行った。トーク&ガイド（対話型鑑賞に準じたもの）による鑑賞プログラムとワークショップを希望されることが多かった。建築探検ツアーを希望する学校もあり、令和8年度では県美のコレクションや建物について親しみが持てる内容のワークショップの開発を行う。
教員向け研修コンテンツの検討・学校との協議	○教育現場への聞き取りや提案を通じた学校団体向けの美術館活用方法や展覧会を紹介するプログラムの作成	・事前出前事業を行わなかったミュージアムバス事業で来館した学校については、事前の教員との打合せの時に、事業の内容を伝え、美術館活用方法を提案した。令和8年度は学校団体向けプログラムの開発とともに、その内容を記載した教員向けの美術館利用ガイドを作成する。

2. 評価指標の判定

項目	指標	現状	達成度・判定※（R7年度）				目標値			備考
			目標値	実績値	達成度	判定	(R8)	(R9)	R10	
学校教育との連携による美術教育の拡充	学校団体の利用数	5校 (R4～6年度平均)	8校	10校	達成	A	10校	12校	15校	ミュージアムバス 5校 ミュージアムバス以外の鑑賞授業校 2校 その他の学校団体利用 3校

3. 自己点検

<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育との連携による美術教育の拡充をはかるため、今年度は初めてミュージアムバス事業を実施した。事前に学芸員が学校におもむき、出前授業を行った場合もあり、鑑賞の理解を深めるとともに、子どもたちと美術館の距離を近づけることができた。 ・学校と美術館を結ぶバスの試験的な導入については、小中学校への周知開始が令和7年3月と、学校行事がほぼ確定した遅い時期ではあったが5校が参加した。令和8年度に向けては、学校行事の立案に入る令和8年1月に周知を実施するとともに、美術の教員が集まる会議等でも周知を行う。 ・学校向けプログラムについては、これまで実施してきた「彫刻探検ツアー」に加え「建築探検ツアー」を新たに設けることができた。一方で、当館に常設展示室が無くコレクションを常に展示することができないため、コレクションに基づく定番プログラムを組むことが難しい。現在は展覧会ごとに学校向けのプログラムを組んでいるが、今後は、コレクションに基づく多様な学校向けプログラムを開発したい。

令和7年度 千葉県立美術館実施計画 外部評価用自己点検票（重点事業7）

重点事業7 資料のデジタルアーカイブ化、SNS等を活用した積極的な情報発信

1. 実施内容および実績

R7実施項目	R7実施内容	R7実績
デジタルアーカイブ化	○浅井忠関連300件・コレクション100選関連100件のデジタルアーカイブ化	○浅井忠関連のデジタルアーカイブ化 ・浅井忠が書いた葉書（研究資料）150件の読み下し作業を実施した。 ・浅井忠以外に、作品180件の高精細画像を撮影（作品1点につき約3点カットの画像）した。 ○コレクション100選関連のデジタルアーカイブ化 ・100件の資料情報整理、撮影、解説文、英訳を完了し公開した。
デジタルコンテンツの公開	○コレクション100選のデジタルコンテンツの作成及び公開	・コレクション100選のデジタルコンテンツを作成し、美術館のホームページに公開した。
ホームページリニューアル作業	○コレクション紹介ページにおけるリニューアル作業	・美術館ホームページのコレクションのページを改変し、資料検索やデジタルアーカイブにアクセスしやすくなるよう変更した。

2. 評価指標の判定

項目	指標	現状	達成度・判定※（R7年度）				目標値			備考
			目標値	実績値	達成度	判定	(R8)	(R9)	R10	
資料のデジタルアーカイブ化、SNS等を活用した積極的な情報発信	解説・高精細画像等を付したデジタル化・公開点数	—	300点	102点			600点	900点	1,300点	
	デジタルコンテンツのアクセス数	—	1,250件				2,500件	3,750件	5,000件	ホームページ内の「コレクション関連ページのアクセス数」

3. 自己点検

<ul style="list-style-type: none"> ・コレクションの魅力や研究成果をあらゆる人々が身近な環境の中で触れられる場面を創出するため、デジタル技術を活用してオンライン上で公開することができた。今後はSNS等を活用した情報発信の強化により、美術館活動をより早く、より分かりやすく周知することで、美術館やアートの魅力に親しめる環境づくりをすすめる。 ・デジタルアーカイブ化は、浅井の研究資料とコレクション100選ともに予定どおり進んでいる。 ・デジタルコンテンツは、コレクション100選を紹介するページを公開した。 ・今後はホームページのコレクションに関連したページをわかりやすくしていく。 ・デジタルコンテンツのアクセス数を把握することが困難なため、今後の指標としては、ホームページ内の「コレクション関連ページのアクセス数」と変更したい。

令和7年度 千葉県立美術館実施計画 外部評価用自己点検票（重点事業8）

重点事業8 様々な特性を持つ人々への対応、あらゆる人々にやさしい環境の整備

1. 実施内容および実績

R7実施項目	R7実施内容	R7実績
平易な解説文など展示方法の改善・合理的配慮	○合理的配慮の視点での解説文や照明の課題の洗い出し ○改善の実施	・国立アトリサーチセンターの『合理的配慮のハンドブック』やボーダレス・アートミュージアムNO-MA『やさしい美術館ガイド』などを参考にしながら、解説文や照明の課題の洗い出しを行い、今後の方針を検討した。
ガイドシステムの導入検討	○他館の状況確認や専門業者への聞き取り ○令和8年度試験導入に向けた検討	・ガイドシステムについて実績のある数社に、アプリや機器の多言語や音声などの仕様、予算について聞き取りを行い検討を進めた。次年度の試験的導入の際には、ハード機器を必要としない（二次元コード活用など）対応による課題の洗い出しをしたい。
施設整備の検討とあわせて館内サインの多言語化の検討・実施	○他館の状況確認や専門業者への聞き取り ○優先度の高いサインにおける多言語化	・様々な特性を持つ人々への対応、あらゆる人々にやさしい環境の整備のため、施設整備については、他館の状況を確認するとともに、専門業者への聞き取りを行った。今年度は「みちのにわ」に、ベビーカーや車いす用歩道整備を実施予定。
デジタルコンテンツへの英語解説付与	○「コレクション100選関連作品」での英語解説の付与	・今年度公開予定のデジタルコンテンツである、コレクション100選関連の100件については、英語解説を付与した。
触れる彫刻展などのワークショップの実施	○触れる彫刻展でのワークショップの実施 ○令和8年度視覚・聴覚障害を含むインクルーシブワークショップの内容検討	○「彫刻に触れるとき－「さわる」と「みる」がであう彫刻展2026」と「うみのもりの玉手箱5（障害者の作品展）」との合同展示解説会を実施。 開催日：2月1日、参加者数：30人 ・「彫刻に触れるとき－「さわる」と「みる」がであう彫刻展2026」の関連シンポジウムを実施。開催日：2月15日、参加者数：20人 ○令和8年度視覚・聴覚障害を含むインクルーシブワークショップの内容検討 ・今年度中は、聴覚障害者のための筆談による対話型鑑賞や、視覚障害者のためのアイマスクを使った対話型鑑賞をミュージアムサポーターと共に試行した。また、他の公立美術館におけるインクルーシブな取り組み事例を調査するとともに、令和8年度以降に当館で展開したいワークショップ案をリストアップし、内容について精査している。

2. 評価指標の判定

項目	指標	現状	達成度・判定※（R7年度）				目標値			備考
			目標値	実績値	達成度	判定	(R8)	(R9)	R10	
様々な特性を持つ人々への対応、あらゆる人々にやさしい環境の整備	障害者等との交流プログラム開催回数	—	1回	2回	達成	A	2回	3回	4回	「彫刻に触れるとき」展と「うみのもり玉手箱5」の合同展示解説会 「彫刻に触れるとき」展関連シンポジウム

3. 自己点検

<ul style="list-style-type: none"> ・美術館が、あらゆる人々のよりどころになるとともに、日々変化し多様化する社会において、未来につながる持続可能な美術館を目指し、今年度は展示方法、合理的配慮、館内サイン等について他機関等への聞き取りを行った。今後は美術館としての具体的な整備について検討を進めていくとともに、インクルーシブなプログラムについて充実をはかる。 ・展示方法の改善、ガイドシステムの導入、サインの他言語化などについては、調査を進めたが取りまとめに至らなかった。 ・今年度公開のデジタルコンテンツであるコレクション100選については、英語解説を付与できた。 ・インクルーシブなワークショップとして試行的に筆談による対話型鑑賞を実施した。引き続き、試行を重ね、インクルーシブプログラムの充実をはかっていく。

令和7年度 千葉県立美術館実施計画 外部評価用自己点検票（重点事業9）

重点事業9 館全体の施設整備に向けた検討、収蔵環境の整備と作品保全

1. 実施内容および実績

R7実施項目	R7実施内容	R7実績
施設整備の検討・調整	○不具合のある設備の洗い出し ○令和8年度設計に向けた準備	・令和8年度以降の施設の修繕に向け、館の劣化度調査の予算を確保した。 ・関係部署と協議し、「展示室及び収蔵庫空調配管工事」を行うことに対し適正判定を得た。 ・「展示室及び収蔵庫空調配管工事」の算定を行い、設計に要する費用を令和8年度当初予算で要求した。
パークとの回遊性向上のための設計・施工	○令和6年度に業者から受けた提案に基づく関係部署とのすり合わせ ○優先順位の高い箇所の施工 ○次年度以降の施工に向けた設計	・関係部署と定期的に会議を開催し、視察や意見交換を実施している。 ・生垣の剪定や千葉ポートパーク案内看板の増設、みちのにわに通路を設置するなど、業者から受けた提案内容や関係部署との意見交換の中、優先順位の高いものから施工した。 ・次年度以降の施工内容について、精査し、具体的な案を検討した。
収蔵庫・展示室の設備改善	○劣化が生じている空調設備の令和8年度設計に向けた準備	・「展示室及び収蔵庫空調配管工事」の算定を行い、設計に要する費用を令和8年度当初予算で要求した。 ・空調機配管の水漏れ箇所については、配管を3月に修繕した。
作品管理要領の見直し	○作品管理徹底のための作品状態の記録方法及び作品管理要領の見直し	・作品状態を記録するための「コンディションカード」の様式を整え、今年度展示した収蔵作品について作品の状態を記録し、コンディションカードを作成した。 ・作品管理要領の見直しのため、近県の公立美術館の規定に係る資料を収集し、管理要領の一部として、定められていなかった閲覧規定を策定した。

2. 評価指標の判定

項目	指標	現状	達成度・判定※（R7年度）				目標値			備考
			目標値	実績値	達成度	判定	(R8)	(R9)	R10	
館全体の施設整備に向けた検討、収蔵環境の整備と作品保全	県立美術館の利用満足度「満足している」と回答した人の割合	43.7% (R4)							60%	R10年度世論調査を予定

3. 自己点検

<ul style="list-style-type: none"> ・未来につながる美術館を実現するため、今年度は「展示室及び収蔵庫空調配管工事」について算定を行い、基盤整備に向けて準備を行うとともに、県民の財産であるコレクションを次世代に受け継ぐため、「コンディションカード」の様式を整え、閲覧規定を策定した。今後は基盤の整備を進めるとともに、作品の管理を徹底していく。 ・令和8年度に「劣化度調査」及び「展示室及び収蔵庫空調配管工事」の設計について実施できるよう予算要求を行った。今後も空調配管工事や当該調査の結果をふまえた必要な工事について予算要求を行っていく。 ・パークとの回遊性向上については、業者から受けた提案や関係部署との意見交換の中から、優先順位が高いものを精査し、今年度施工することができた。更に回遊性の向上が図れるよう、引き続き関係機関と連携しながら取り組んでいく。

令和7年度 千葉県立美術館実施計画 外部評価用自己点検票（重点事業10）

重点事業10 アメニティ設備の整備・充実による魅力的な美術館空間の創出

1. 実施内容および実績

R7実施項目	R7実施内容	R7実績
憩いの空間の整備	○無料エリアにおける常設体験コーナーの設置	・エントランスでのワークショップは原則常設で行うこととした。また、講堂や第7展示室では企画展の開催に合わせ、空間を活用してワークショップを行った。 ・無料エリアで随時ワークショップが可能となるように移動式ワークショップワゴンや作業機を導入した。
レストラン・ショップの設備整備	○レストラン再導入に向けた設備整備 ○ショップの什器や設備の点検及び更新	・レストランの再開については、年度当初公募をかけたが、施設の老朽化等により応募が無かったため、厨房施設の修繕費用を措置した。 ・不定期ではあるが、キッチンカーによる食事の販売を行った。
コレクション関連グッズの開発、レストランメニューの充実	○コレクション関連グッズの開発 ※令和6年度末にレストラン閉店。再導入時にメニューの充実を検討。	・令和6年度に制作した図録『千葉県立美術館コレクション100選』及びポストカード（収蔵作品及び建築）を継続してショップにて販売した。 ・コレクション関連グッズとして、鳩香炉に関するペンと美術館の外観をデザインしたトートバックを開発中である。

2. 評価指標の判定

項目	指標	現状	達成度・判定※（R7年度）				目標値			備考
			目標値	実績値	達成度	判定	(R8)	(R9)	R10	
アメニティ設備の整備・充実による魅力的な美術館空間の創出	県立美術館の利用満足度「満足している」と回答した人の割合	43.7% (R4)							60%	R10年度世論調査を予定

3. 自己点検

<ul style="list-style-type: none"> ・魅力的な美術館空間の創出のため、今年度は子ども向けの空間整備として無料エリアにおける常設体験コーナーを整備した。 ・レストランの再開については、厨房施設の修繕を8年度実施できるよう、予算要求を行った。現在は来館者が利用できる休憩室として活用、レストラン入口に自動販売機を設置するなど利用しやすい状況にしている。 ・コレクション関連グッズの開発・製品化を行い、充実をはかる。

令和7年度 千葉県立美術館実施計画 外部評価票（総合指標、総評）

1. 判定

項目	指標	現状	R7年度自己点検				目標値			備考
			目標値	実績値	達成度	判定	(R8)	(R9)	R10	
1 県立美術館の認知度	「知っている」と回答した県民の割合	40.1% (R6)							50%	R10年度文化芸術への意識に関するアンケート調査を予定
2 県立美術館の利用満足度	「満足している」と回答した人の割合	43.7% (R4)							60%	R10年度世論調査を予定
3 年間入館者数	3年間の入館者数の平均	99,164人 (R3~5平均)	105,000人	133,227人	達成	A	110,000人	115,000人	120,000人	1月末現在

2. 自己点検

定量的な目標値は、ほとんどの項目で達成できた。年間入館者数も、令和7年度は140,000人を上回ると予想される。今後とも目標値を超える実績を達成できるように努力していきたい。定量的な成果と同時に個々の活動の内容を充実させることが必要だと考えている。全体の事業のなかで、新規事業を含め、展示室、アトリエ棟などでの活動が大きく拡大した半面、デジタル化事業（画像資料の整備を含む）、学校との連携事業など、目につきにくい活動への注力が十分だったとは言えない。作品・資料の基本的データの整備、作品管理など、研究活動・展示活動の基盤づくりにも取りかかっていたい。